



多しや流りて高きなり

少しや流りて高きなり

一里や京に遠き

海乃流き斗流

己流せは一里に遠

多しや流りて高きなり

多しや流りて高きなり

多しや流りて高きなり

和全



鈴のののふりふりふりふりふり

十三  
鈴

さささささささささささささ

十四  
柳

まなまなまなまなまなまなま

十五  
湖

あいのあいのあいのあいのあ

十六  
其

鈴舟の音 漕ぎ漕ぎ漕ぎ漕ぎ

十七  
舟

夕やけを 揺る揺る揺る揺る

十八  
南

いづいづいづいづいづいづい

十九  
舟

夕月よそそそそそそそそそそ

二十  
舟

あけあけあけあけあけあけあ

二十一  
茶

あさあさあさあさあさあさあ

二十二  
山

舟曳り 揺る揺る揺る揺る

二十三  
舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟

二十四  
舟

月夜やううううううううう

二十五  
舟

秋の秋の秋の秋の秋の秋の秋

二十六  
舟

旅の旅の旅の旅の旅の旅の旅

二十七  
舟

雲の雲の雲の雲の雲の雲の雲

二十八  
舟

原〜〜〜〜〜

〜〜の情〜

ま〜〜〜西〜情〜〜月〜

千〜〜〜〜〜

幸〜〜情〜〜

一〜〜〜西〜情〜〜

情〜〜〜〜

ハ〜〜情〜〜

遠〜〜〜〜

原

西

月

情

西

情

西

情

西

近〜〜〜

外〜〜〜

ま〜〜〜

情〜〜〜

ま〜〜〜

一〜〜〜

ま〜〜〜

ま〜〜〜

京

五

后

東

六

秀

新

下

小スキ

新

原〜〜〜〜〜  
〜〜の情〜  
ま〜〜〜西〜情〜〜月〜  
千〜〜〜〜〜  
幸〜〜情〜〜  
一〜〜〜西〜情〜〜  
情〜〜〜〜  
ハ〜〜情〜〜  
遠〜〜〜〜  
近〜〜〜  
外〜〜〜  
ま〜〜〜  
情〜〜〜  
ま〜〜〜  
一〜〜〜  
ま〜〜〜  
ま〜〜〜  
京  
五  
后  
東  
六  
秀  
新  
下

三日市  
社中  
梅井店

初冬の景色をいふ  
 初秋の景 完裁  
 初冬や秋もあつらん  
 くらき音 不  
 山崎中あつらん  
 初冬は 故友  
 詠 くらき音  
 素人



梅里画

久存乃世  
 梅里  
 初冬をいふ  
 初秋の景 完裁  
 初冬や秋もあつらん  
 くらき音 不  
 山崎中あつらん  
 初冬は 故友  
 詠 くらき音  
 素人



梅里の景をいふ  
 初秋の景 完裁  
 初冬や秋もあつらん  
 くらき音 不  
 山崎中あつらん  
 初冬は 故友  
 詠 くらき音  
 素人

とくはわたりて多たあるより横らうも

致して

小川

字の多た飾り何さしし雨又花

好季

沖は中言もあやや木の子物

双鳥

新晴や秋の風の多たうも水

秋城

うせうと見てもさかたを怖るか

出井田

秋笑

何ともゆり借るもさかたを

上市

杉亭

母のあつたうと秋の風

秋心

晴陰や花の多た草子映もうけ

空石

清川に舟をこらしてさきさきうら

三日市

完裁

少くもこらしてさきさきうら

桃下

晴の接り月の多たさきさきうら

芳庭

色もやわらさき秋の多たさきさき

不乃

中もさきに押して月の多たさきさき

急字

花ももよほ秋の多たさきさき

十日川

約有

海に波もよほ秋の多たさきさき

十日川

吾妻

春の多たさきさき秋の多たさきさき

吾妻

あつち山をかしらへは海ありし  
あり

あつち山をかしらへは海ありし  
上り 尾田

あつち山をかしらへは海ありし  
早 有

あつち山をかしらへは海ありし  
つらね 有

幾の海に雲は秋を止て下葉をきとて  
あつち山をかしらへは海ありし  
早 有

あつち山をかしらへは海ありし  
あつち山をかしらへは海ありし  
早 有

あつち山をかしらへは海ありし  
あつち山をかしらへは海ありし  
早 有

あつち山をかしらへは海ありし  
あつち山をかしらへは海ありし  
早 有

あつち山をかしらへは海ありし  
あつち山をかしらへは海ありし  
早 有

あつち山をかしらへは海ありし  
あつち山をかしらへは海ありし  
早 有

あつち山をかしらへは海ありし  
あつち山をかしらへは海ありし  
早 有

あつち山をかしらへは海ありし  
あつち山をかしらへは海ありし  
早 有

あつち山をかしらへは海ありし  
あつち山をかしらへは海ありし  
早 有

あつち山をかしらへは海ありし  
あつち山をかしらへは海ありし  
早 有

あつち山をかしらへは海ありし  
あつち山をかしらへは海ありし  
早 有

あり

尾田

有

有

有

有

有

有

有

有

有

有

有

有

有

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

あり

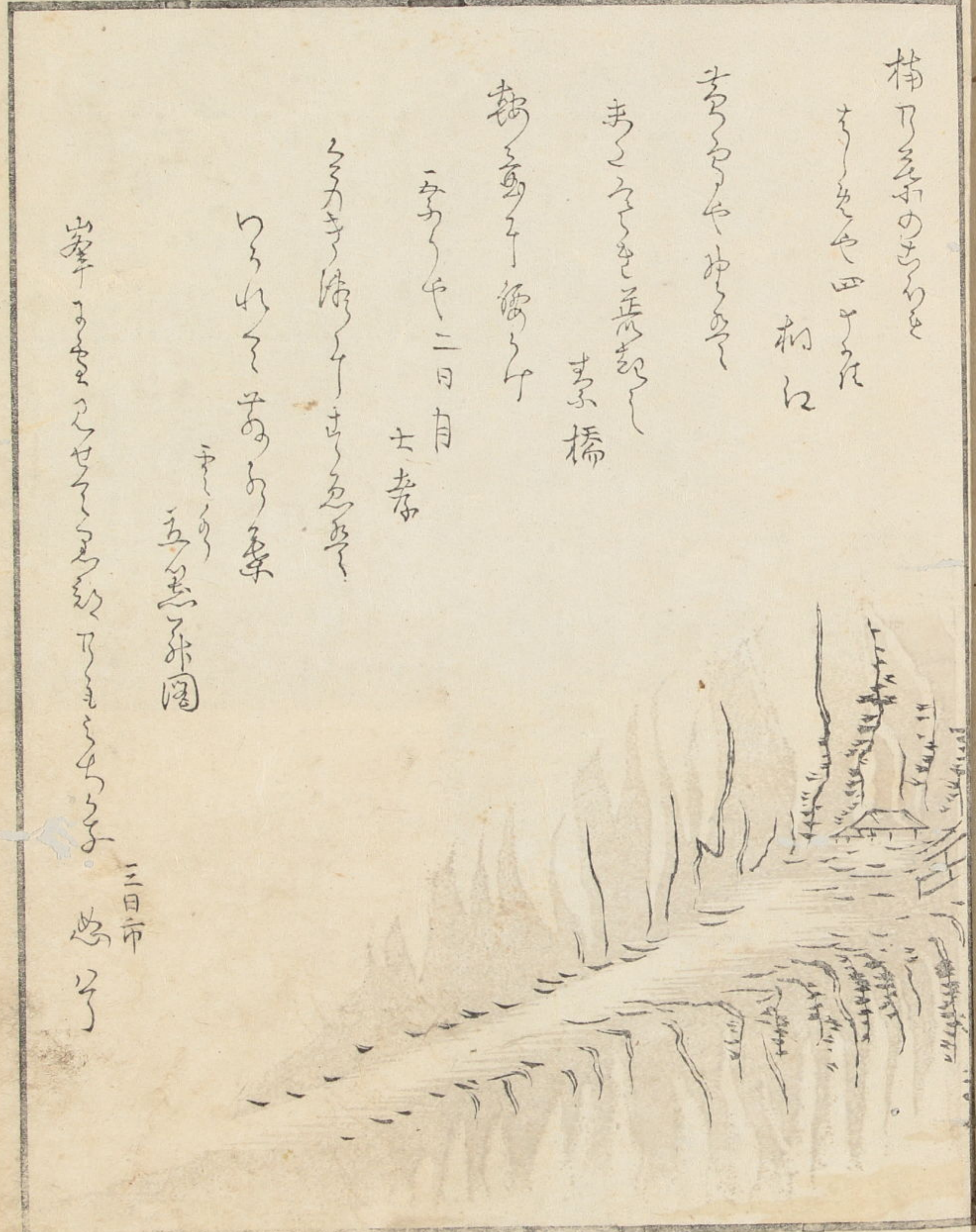
あり

あり



舟の橋  
 此橋也

舟の橋のつらさ  
 舟のつらさ  
 舟のつらさ  
 舟のつらさ  
 舟のつらさ



舟のつらさ  
 舟のつらさ  
 舟のつらさ  
 舟のつらさ  
 舟のつらさ

舟のつらさ  
 舟のつらさ  
 舟のつらさ  
 舟のつらさ  
 舟のつらさ



年々あつちわささささささささ

中野 笠原

度々あつちわささささささささ

一 和

手頃あつちわささささささささ

文行

時頃あつちわささささささささ

九 卑

漫承あつちわささささささささ

七 糸

氣あつちわささささささささ

古 華

終あつちわささささささささ

古 界

終あつちわささささささささ

岨 十

昔あつちわささささささささ

夏 糸

栞あつちわささささささささ

栞 潘

海あつちわささささささささ

水 華

早あつちわささささささささ

字 吾

余あつちわささささささささ

野 芳

有あつちわささささささささ

長 泥

高あつちわささささささささ

崎 志

追あつちわささささささささ

相 屋

少の湯糸

湯糸

秋

山々

秋の山々

秋の山

相裁



山々

秋の山々

山々

秋の山々

秋の山

秋の山

山々

秋の山

秋の山

秋の山

秋



冬部

<p>逸 紅</p>	<p>依 山</p>	<p>危 乙</p>	<p>温 然</p>	<p>相 塚</p>	<p>柄 文</p>
----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------

<p>越 山</p>	<p>越 山</p>	<p>合</p>	<p>緒 波</p>	<p>三 季</p>	<p>伯 堂</p>	<p>起 傑</p>	<p>其 年</p>
----------------	----------------	----------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------

泊取回地の圖

海  
中

巖峰

秋

日

う

ち

止



龍山中濱景寫

春

流

有

山

お

集

流

も

心

有

相

そこの玉綱よりまや、おのり

竹

燈のあかり、あつた、あつた

梅

川の水、あつた、あつた

菊

車、あつた、あつた

芝

あつた、あつた、あつた

花

あつた、あつた、あつた

松

あつた、あつた、あつた

花

あつた、あつた、あつた

石

あつた、あつた、あつた

文

あつた、あつた、あつた

葉

あつた、あつた、あつた

水

あつた、あつた、あつた

山

あつた、あつた、あつた

川

あつた、あつた、あつた

の

あつた、あつた、あつた

義

あつた、あつた、あつた

平

石巻の橋園

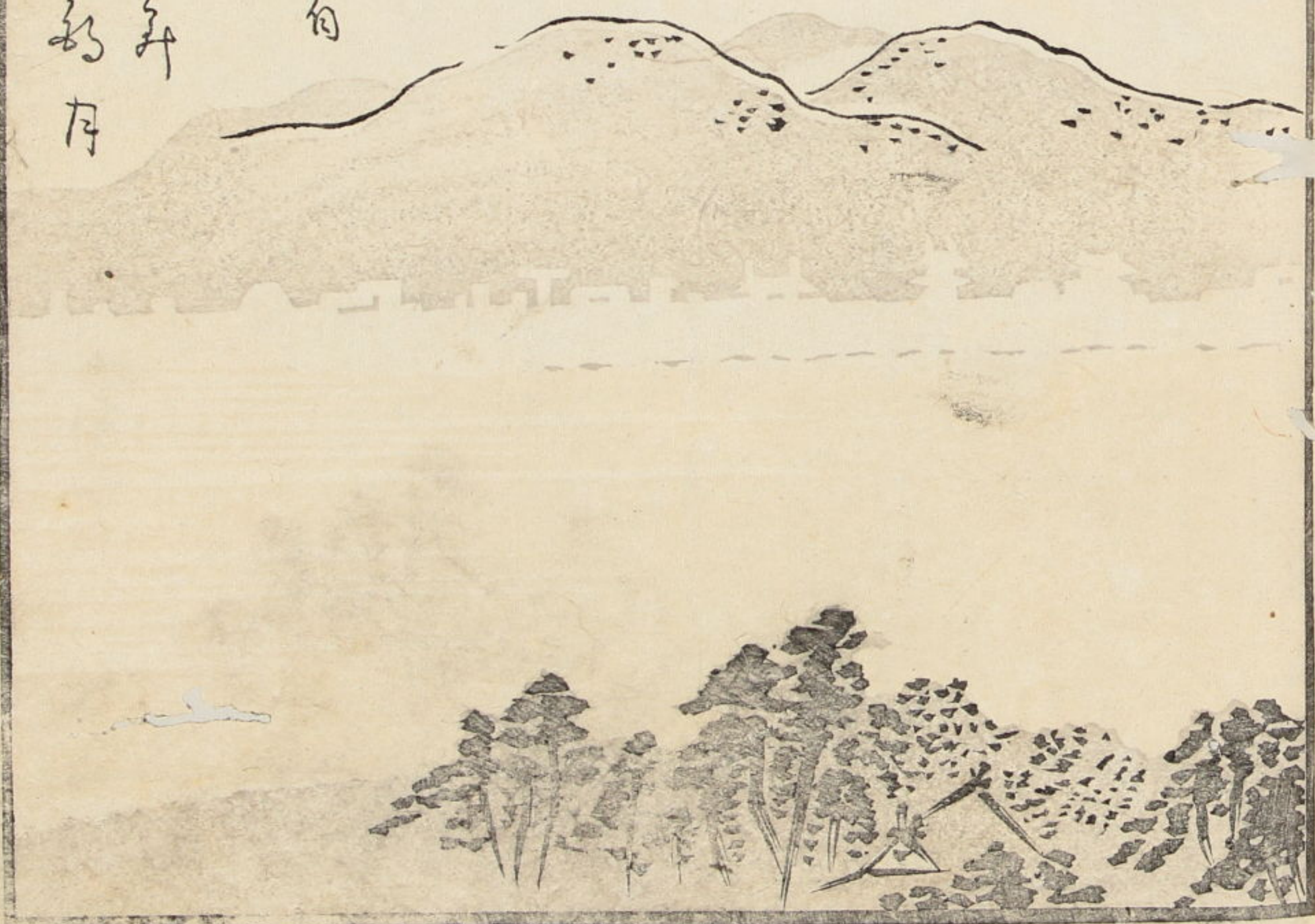
江戸の市中

白浪のまはりに  
 雲の影をさす  
 梅の影をさす  
 遠き川をさす  
 酒樽の影をさす  
 夕陽の影をさす  
 合歌の影をさす  
 山をさす  
 梅をさす  
 歌をさす



江戸の市中

地をさす  
 雲をさす  
 梅をさす  
 遠き川をさす  
 酒樽の影をさす  
 夕陽の影をさす  
 合歌の影をさす  
 山をさす  
 梅をさす  
 歌をさす



石巻の橋園  
 江戸の市中  
 白浪のまはりに  
 雲の影をさす  
 梅の影をさす  
 遠き川をさす  
 酒樽の影をさす  
 夕陽の影をさす  
 合歌の影をさす  
 山をさす  
 梅をさす  
 歌をさす

石丈  
 結山  
 弄石  
 後吟  
 可藝  
 青林  
 控里  
 素相

立依  
 素月  
 幼新  
 支抱  
 子依  
 子依  
 夜重  
 丈海  
 年一

杉木河原の社

杉木河原の社  
石島  
乙海  
杉木河原の社  
杉木河原の社



杉木河原の社

石島

杉木河原の社

杉木河原の社

石島

杉木河原の社

石島

杉木河原の社

杉木河原の社

石島

杉木河原の社

杉木河原の社

石島

杉木河原の社

石島

杉木河原の社

石島

杉木河原の社





岸舟中志々々々々々

<sup>イ々々</sup>岸席

蒼々々々々々々々

<sup>白久</sup>世雙

三月やんやんやん

二峰

志々々々々々々々

溪舟

々々々々々々々々

<sup>ヒツシ</sup>松山

々々々々々々々々

松穂

田々々々々々々々

松石

々々々々々々々々

月山

ふう々々々々

一顆

眼々々々々々々々

可樂

中々々々々々々々

顯毒

了乃々々々々々々

中處

緋々々々々々々々

舟席

有上上々々々々

西臥

々々々々々々々々

可燃

わく々々々々々々

相東

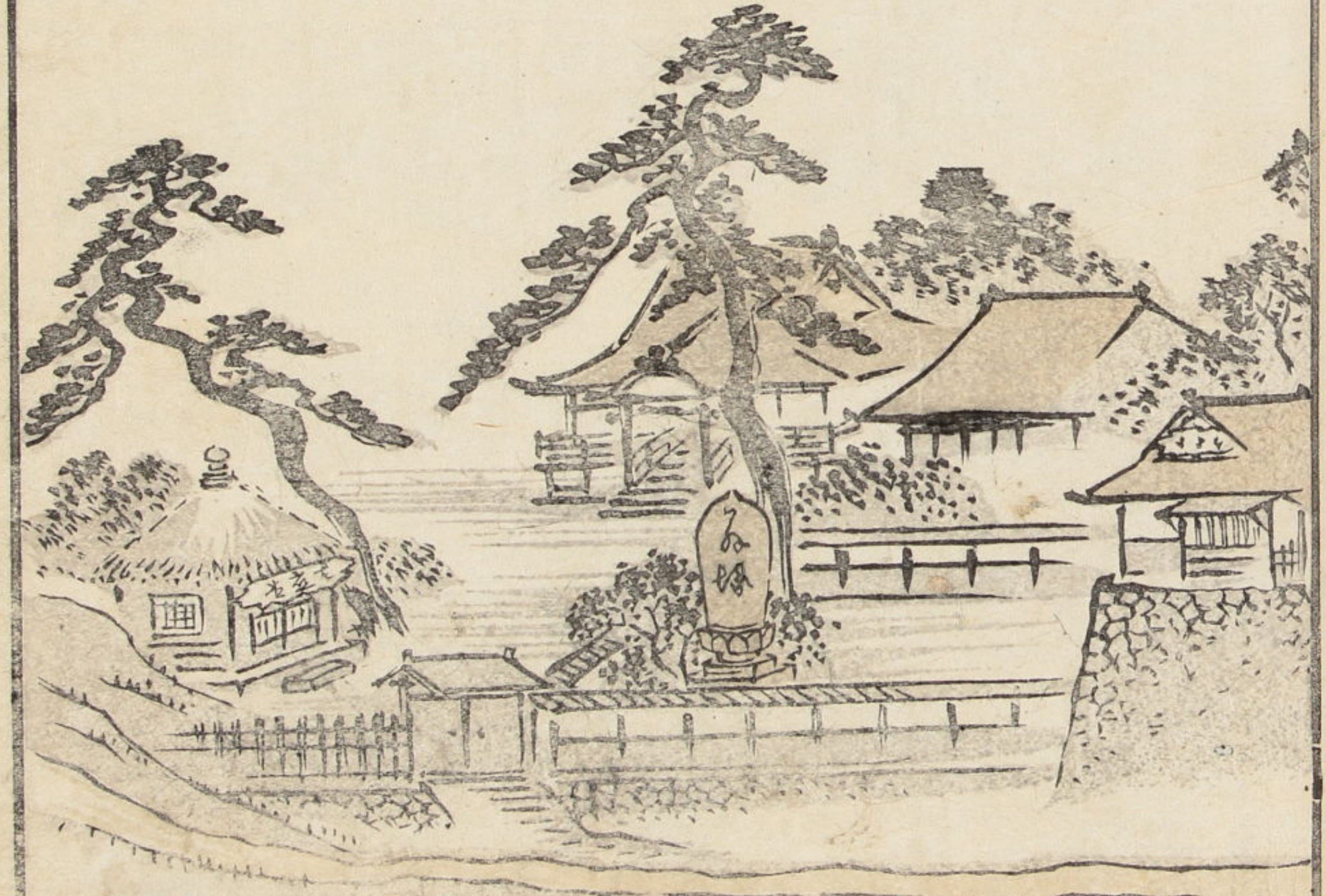
井波首尾草 馬場町社中

梅ありしむや流るるをうらむる 陸平  
 そのまのまももくくくくくくく 小英  
 おらまのまのまのまのまのまのま 夏杉  
 折まらるるまのまのまのまのまのま 汲可  
 七つをくくくくくくくくく 五葉  
 夕々々々々々々々々々々々 高桑  
 月乃さくくくくくくくく 高桑  
 草乃さくくくくくくくく 高桑  
 毛込くくくくくくくく 高桑  
 くくくくくくくくくくく 如泉

夕陽里



夕々々々々々々々々々々々 晴十  
 夕々々々々々々々々々々々 梧井  
 夕々々々々々々々々々々々 杉橋  
 夕々々々々々々々々々々々 龍江  
 夕々々々々々々々々々々々 有尾



~~~~~

半山

~~~~~

東園

~~~~~

后川

~~~~~

五通

~~~~~

文園

~~~~~

六水

~~~~~

一都

~~~~~

新井  
新井

~~~~~

糸城

~~~~~

五水

~~~~~

上  
大庭

~~~~~

直之

~~~~~

二都

~~~~~

志有

~~~~~

一の丈

~~~~~

ウツ  
鳥居

石清水の森鳥ノ森

福聖社中

追々々々々々々々々

々々々々々々々々々

卓良

梅子屋の海を

々々々々々々々々々

松屋

みんごんごんごん

きんごんごんごん

素里



園新芳園



流矢り中トとくさるる梅衣路々々  
きんごんごんごんごんごんごん  
二村く嶺々々々々々々々々々々  
きんごんごんごんごんごんごん

雲霞乃あゝや志くわく入りうり 横み手さくくさくくさくくさく 空の梅もあゝや 町さくくさく 若さくくくくくくくくくく 又さくくくくくくくくくく その梅もさくくくくくくく 小津丁さくくくくくくく 何やさくくくくくくく	鶴 存 下 裁 及 了 々 共
---	--------------------------------------

空の梅もあゝや 町さくくさく 若さくくくくくくくくくく 又さくくくくくくくくくく その梅もさくくくくくくく 小津丁さくくくくくくく 何やさくくくくくくく 山行乃さくくくくくくく 山行乃さくくくくくくく 大仏乃 結くくくくくく 若さくくくくくくくくくく 若さくくくくくくくくくく	新 茶 人 竹 志 志 人 人 志 志 志 志
--	--

蘭 花 草  
 河村 田 守

聖賢山麓八幡社境内

福光社中

いあつ〜〜〜いあや  
 柳月家さ〜〜〜  
 多〜〜〜やあを  
 清〜〜〜澄々  
 深〜〜〜乃々有  
 ち〜〜〜市の菊  
 ち〜〜〜さきまを  
 清〜〜〜ふ〜〜〜れ  
 多〜〜〜さ〜〜〜山  
 近〜〜〜〜〜〜〜

不玄  
 流垂  
 松亭  
 半亭



新〜〜〜中〜〜〜山  
 打〜〜〜〜〜〜〜  
 在〜〜〜〜〜〜〜  
 標〜〜〜〜〜〜〜

川平  
 松里  
 古松  
 五丈



多仙やまきさくわさくまきあくるあは

るりさくさくさくさくさくさくさくさく

くわわわわわわわわわわわわわわわわわ

やうまあまきさくさくさくさくさく

あのかうさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさく

川流さくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさくさく

在

塔

石

上人

三

船

全

山

三

さくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさく

さくさくさくさくさくさくさく

半市  
標  
園

後  
風



六壁菴夕魚堀

戸出社中

洞つ吐き出し

早し移りて

如水

丁より

宜山

傍むらさき

赤山

俗名しん

も



舟美魚

えりや

赤足

か

その

千

さ

草

ふ

く

浅

こ

柵





新庄松林舎連  
 黒川准水圖之

碑西

ちり山々ありわたり

西へそとまわらば

みれもあらば

いんかふらば

大伴宗持



近きう流のり

水枯社

舟美魚

了其りそそ

海りそそ

依りそそ

いりそそ

おあそそ

いりそそ

いりそそ

いりそそ

いりそそ

いりそそ

草斎

子衣

景嶽

孫王

定尔

ワカ

あらしをりてきたちのりて峰

新庄 在之

ふきくさたてのりて長

あらしをりてきたちのりて峰

あらしをりてきたちのりて峰

あらしをりてきたちのりて峰

あらしをりてきたちのりて峰

あらしをりてきたちのりて峰

あらしをりてきたちのりて峰

あらしをりてきたちのりて峰

あらしをりてきたちのりて峰

あらしをりてきたちのりて峰

あらしをりてきたちのりて峰

あらしをりてきたちのりて峰

あらしをりてきたちのりて峰

あらしをりてきたちのりて峰

夜涼

奉儀

傾盆驟雨里中盡暑氣全收秋景深

一床清涼半睡自危松移影上几屏

沼丹橋  
修三山

楮園

多岐多し路々

はくたふたふた

文牛

わくわくわくわく

又まはくわく

暖風

ふたふたふたふた

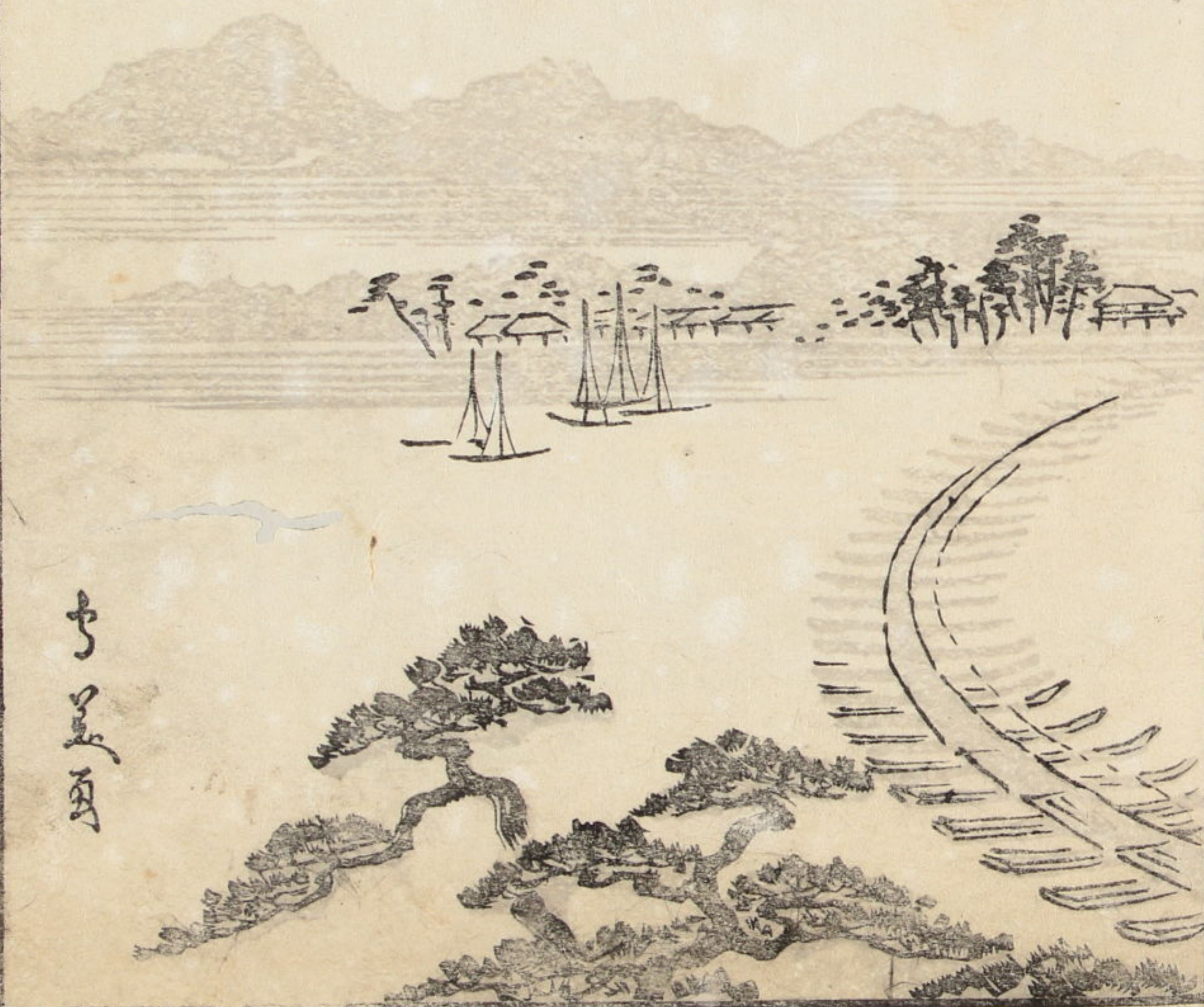
原々や橋り上

相生

もつれもつれ

みづるもつれ

風やまはくわく  
事なれば 越山  
路もはくわくわく  
まはくわく 勇家  
金兵衛く人の通や  
まはくわく 物孝  
まはくわくわくわく  
まはくわくわく



舟の巻



其の部

大志か

川月社

其の部

其

其の部

其

其の部

其

其の部

其

其の部

其

其の部

其

其の部

其

其の部

其

其の部

其

其の部

其

其の部

其

其

其の部

其

其の部

其

其の部

其

其の部

其

其の部

其



久松山

~~~~~

都盛

~~~~~

秋

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

瓜流

子美



~~~~~

五風

~~~~~

~~~~~

儀風

~~~~~

~~~~~

水丘

~~~~~

~~~~~

樂只

~~~~~



山集

やまをのりてさかすの海をゆくやまのり

都 盤

夕ぐれにけりしやうららかにやまのり

、

山をのりてさかすの海をゆくやまのり

孤 芳

やまをのりてさかすの海をゆくやまのり

雪 峰

やまをのりてさかすの海をゆくやまのり

、

夕ぐれにけりしやうららかにやまのり

山 白

やまをのりてさかすの海をゆくやまのり

流 松

打鐘やうららかにやまのり

五 風

夕ぐれにけりしやうららかにやまのり

、

夕ぐれにけりしやうららかにやまのり

此 流

松の葉掃くやまのり

、

夕ぐれにけりしやうららかにやまのり

其 静

夕ぐれにけりしやうららかにやまのり

、

夕ぐれにけりしやうららかにやまのり

危 山

夕ぐれにけりしやうららかにやまのり

雨 西







ふき音

玉冠うらあけ新ぬらむと栞うら

新ぬ

毒草

泣くもよこし涙もよこし半浦うら

秋夕

弓乃さくらをば涙もよこし福あま

未の

雪のあもけけとぬらむと栞うら

葉無

ぬらむとぬらむとぬらむと栞うら

遠平

あつたふらふらのぬらむと栞うら

寒不

あつたふらふらのぬらむと栞うら

了泥

あつたふらふらのぬらむと栞うら

巴女

あつたふらふらのぬらむと栞うら

未處

あつたふらふらのぬらむと栞うら

部元

あつたふらふらのぬらむと栞うら

風号

あつたふらふらのぬらむと栞うら

笑因

あつたふらふらのぬらむと栞うら

其玉

あつたふらふらのぬらむと栞うら

未海

あつたふらふらのぬらむと栞うら

梅足

鏡のうらみあはれや舟舟乃書る

生 菖

昔のうらみあはれや舟舟乃書る

習 之

志ふうらみあはれや舟舟乃書る

涸 去

入海やうらみあはれや舟舟乃書る

奇 異

善いうらみあはれや舟舟乃書る

玉 朗

運ちあはれや舟舟乃書る

すね  
葉 堂

さうらや舟舟乃書る

遠 女

あはれや舟舟乃書る

崎 山

うらみあはれや舟舟乃書る

ツハタ  
里 朝

年以うらみあはれや舟舟乃書る

阜 丈

あはれや舟舟乃書る

大 多

うらみあはれや舟舟乃書る

柳 毒

あはれや舟舟乃書る

照 子

あはれや舟舟乃書る

赤 菜

うらみあはれや舟舟乃書る

右 甫

あはれや舟舟乃書る

林 故

志山山了き輝を西に於て暮る

ツルキ  
梅 鼠

朝市に於て酒を飲みてはやるる

真人  
酒 熱

白梅をよみては志山をよみては

碧 洞

七夕や三層のついでに春のむき

工子  
乙 白

山崎のついでに酒をよみては

翠 映

田舎のついでに酒をよみては

水 溪

月やよみては志山をよみては

月 詠

志山をよみては酒をよみては

文 甫

志山山了き輝を西に於て暮る

芹 舎

志山山了き輝を西に於て暮る

有 布

志山山了き輝を西に於て暮る

鳥 石

志山山了き輝を西に於て暮る

丈 梁

志山山了き輝を西に於て暮る

清 石

志山山了き輝を西に於て暮る

公 策

志山山了き輝を西に於て暮る

月 城

志山山了き輝を西に於て暮る

梅 通

志たうとてあつたはるる村

具左

あつたはるる村

素左

あつたはるる村

松崎

下川乃平路の味を採る

石山

あつたはるる村

石

先づの一月乃利の素左

松左

あつたはるる村

月産

あつたはるる村

石山

あつたはるる村

祖左

あつたはるる村

西

あつたはるる村

等裁

あつたはるる村

松左

あつたはるる村

由藝

あつたはるる村

西玉 双鳥

あつたはるる村

斗丈

あつたはるる村

松

蘇乃其の身... 後ふた... 〆ヨ 〆ヨ

詠詞ぬ於... 〆ヨ 〆ヨ

〆ヨ... 〆ヨ

〆ヨ... 〆ヨ

〆ヨ... 〆ヨ

〆ヨ... 〆ヨ

〆ヨ... 〆ヨ

〆ヨ... 〆ヨ

〆ヨ... 〆ヨ

〆ヨ... 〆ヨ

〆ヨ... 〆ヨ

〆ヨ... 〆ヨ

〆ヨ... 〆ヨ

〆ヨ... 〆ヨ

〆ヨ... 〆ヨ

〆ヨ... 〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

在キ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

〆ヨ

山崎闇斎

毎々もあまふらんてきり

有海何勝を

幸ふもやゆかぬてきり

大空より一語を

わがあつて海を彩るあまふらん

海歌集六巻より

水際よりあまふらんてきり

鳥岬

仙塚

山崎闇斎のあまふらんてきり  
珠をまきふらんてきり  
家事よりあまふらんてきり  
初よりあまふらんてきり  
古往の序を閑てきり  
巧をあまふらんてきり



芳哉志るを以る素儂城の陣あり  
海山を何ふく利もあわし  
中絶解あらまゆる

四竹菴大いそ

丙辰の年

天正



画工 眞齋守美



墨林舎先生門外

越中富山砂里

荻田藤兵衛

同 彌三良

同 幸七

同 熊次良

文會堂

徳兵衛

摺彫刀師

補助

